

中年期女性の心理特性

関塚 真美 坂井 明美 島田 啓子 田淵 紀子
亀田 幸枝 笹川 寿之 小池 浩司* 保田ひとみ**

KEY WORDS

women, middle age, egogram

はじめに

我が国における平均寿命の延長は個人のライフスタイルの変化をもたらした。このことは中年期女性の人生選択の有様にも反映されている。たとえば、既婚者では結婚生活20年以上の離婚は1975年に5.8%であったのに対し2000年においては16.5%に上昇している¹⁾。岡堂による家族発達プロセスにみられる課題と危機では、中年期は発達段階I～VI段階のV段階子どもの巣立ち期に一致し、子供の親役割と老親の介護の役割を担う年代である²⁾。身体的には加齢に伴う変化として動脈硬化、高脂血症、骨粗鬆症、更年期障害などがみられやすく、特に女性においては女性ホルモンのバランスの乱れからメンタルヘルスにも影響を及ぼしはじめる。これまで一般に青年期や老年期の心理はよく研究されているが中年期の心理はあまり研究されてきていない。しかし近年心理学や精神医学の分野で「中年の危機」なる言葉が用いられてきているように心身ともに変化がみられるのが中年期である。中年期男性労働者に関してはストレスや精神健康状態の関連からみた報告はあるが中年期女性の報告はほとんどない。そこで中年期女性の自我状態を明らかにすることを目的とし、東大式エゴグラム（以下TEG）により自我状態を測定し、婚姻状況、子供の有無、介護役割の有無、孫の世話の有無、居住状況、就労状況、社会活動、生活満足度との関連を検討した。

方 法

1. 対象

2002年4月から6月の間に金沢市内K大学病院婦

人科外来に受診した女性のうち、本研究に同意を得た72名である。

2. 調査方法

1) 調査内容

(1) 基礎情報

対象者に個別面接で、年齢、婚姻状況、子供の有無、介護役割の有無、孫の世話の有無、居住状況、就労状況、社会活動、および生活満足度の9項目を調査した。婚姻状況は現在婚姻関係のある場合を「既婚」とし、離別、死別、非婚を「未婚」として分類した。子供の有無は実子、養子を問わず、いる場合を「あり」とした。介護役割は実父母、義父母、あるいは成人同居人での自宅での介護を実施している場合の有無を問い、孫の世話の有無については外孫、内孫を問わず日常生活の世話をする時間が1日平均2時間以上の場合に「あり」とした。居住状況は現在同居している人が夫の場合「夫と2人」、子供、親、孫、兄弟、義兄弟の場合を「二世帯以上」とし、単身生活者を「独居」とした。就労については専業主婦の場合「なし」とし、パートタイム、フルタイム、自営の場合は「あり」と分類した。社会活動は個人の学習活動やボランティア、社会参加を時間で質問し、1週間に1時間未満を「なし」とし、それ以上を「あり」とした。生活満足度については現在の日常生活の満足感から「満足」、「まあまあ満足」、「不満足」の3段階に分類した。

(2) 自我状態

TEGを対象者に手渡し、自己記入式で行った。今回使用したものは2002年に新版TEGとして発

金沢大学医学部保健学科看護学専攻

* 金沢大学大学院医学系研究科産科婦人科学

** 金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程

表1 エゴグラム・サブカテゴリー平均得点

	Mean±SD	range
CP	10.0±3.4	2-18
NP	15.3±3.5	2-20
A	10.1±4.1	0-19
FC	12.8±4.3	1-20
AC	8.9±3.6	2-19

表2 エゴグラム・パターン分類

	度数	パーセント
AC低位型	15	21.4
平坦型	9	12.9
NP優位型	7	10.0
逆N型	6	8.6
台形型	6	8.6
AC優位型	5	7.1
FC低位型	4	5.7
M型	4	5.7
N型	3	4.3
A低位型	2	2.9
NP低位型	2	2.9
W型	2	2.9
CP低位型	1	1.4
CP優位型	1	1.4
C優位型	1	1.4
FC優位型	1	1.4
P優位型	1	1.4
合計	70	100

刊されたものである。交流分析では自我状態のしくみを扱う理論を「構造分析」、自我状態の働きを扱う理論を「機能分析」といい、これをグラフ化して視覚的に表したものがエゴグラムで、批判的な親 (Critical Parent : CP), 養育的な親 (Nurturing Parent : NP), 大人 (Adult : A), 自由な子供 (Free Child : FC), 順応した子供 (Adapted Child : AC) の5つの自我状態を把握するものである。この5尺度のプロフィールを全体的、総合的にとらえ個人の自我状態をより包括的に理解するものがエゴグラム・パターンである。パターンは5尺度のなかでどの尺度が最高点であるか、あるいは最低点であるかを見極めて「優位型」の5型、「低位型」の5型、どちらにも該当しない「混合型」の9型とし、大きく19型に分類されている。

2) データ処理

データの統計学的処理には SPSS ver10.1を用い、 $p < 0.05$ を統計学的に有意とみなした。

3. 倫理的配慮

調査依頼時に目的や方法、研究以外の目的では使用しないことを説明し、調査の趣旨に同意が得られた者を対象とした。調査用紙は無記名で記入することとした。

結 果

1. 対象の属性およびエゴグラム・サブカテゴリーの平均得点

TEGの妥当性尺度：Low Frequency Scaleは4点以上の場合、疑問尺度：Question Scaleは35点以上の場合、妥当性に乏しいので、これに該当した2名を除外した70名を分析の対象とした。(有効回答率97%)

調査対象の平均年齢は53.7±7.0歳 (range40-68)であった。エゴグラム・サブカテゴリーの平均得点はCP=10.0±3.4, NP=15.3±3.5, A=10.1±4.1, FC=12.8±4.3, AC=8.9±3.6であった。(表1)

2. エゴグラム・パターンの分類

エゴグラム・パターンは19型のうち17型に分類していた。上位からAC低位型15名(21.4%), 平坦型9名(12.9%), NP優位型7名(10.0%)であり、上位3型で44.3%をしめた。(表2)

3. 諸要因によるエゴグラム・サブカテゴリー平均得点の比較

諸要因によるエゴグラム・サブカテゴリーの平均得点を表3に示す。介護役割の有無により有意差がみられ、介護有りの群が介護なしの群に比べてAC得点が有意に高かった。

また居住状況において、二世代以上の群が夫と2人暮らしの群に比べてAC得点が有意に高かった。なお、婚姻、子供の有無、孫の世話の有無、就労状況、社会活動、生活満足度のそれぞれによるエゴグラム・サブカテゴリーの平均得点には有意差がなかった。

考 察

エゴグラムは個人の内なる自我状態の心的エネルギーを表出したものである。親(P), 成人(A), 子供(C)の自我状態のエネルギー配分は職業、性別、疾患、環境因子、年齢などに影響を受ける。喜多ら³⁾の出産後1ヶ月から24ヶ月までの平均29才の育児期母親を対象とした報告によるとA得点13.9±3.8, AC得点13.6±2.7であり、今回の結果はそれに比べ有意に低い結果であった。Aの意味は事実に基づき物事を客観的かつ論理的に理解し、判断しようとする自我状態で他の自我状態の調整役であるとき

表3 諸要因別エゴグラム・サブカテゴリーの平均得点

		CP Mean±SD	NP Mean±SD	A Mean±SD	FC Mean±SD	AC Mean±SD
婚姻	既婚 (n=58)	9.8±3.5	15.2±3.5	10.0±4.0	12.8±3.9	9.2±3.6
	未婚 (n=12)	10.8±3.1	16.0±3.2	10.6±4.8	12.7±6.2	7.8±3.6
子供	あり (n=60)	10.0±3.5	15.5±3.5	10.3±4.0	12.9±4.0	9.0±3.6
	なし (n=10)	9.7±2.3	14.4±3.0	9.2±4.6	12.2±6.3	8.4±3.5
介護役割	あり (n=14)	8.8±3.1	13.8±3.9	9.3±3.9	11.9±5.1	11.6±2.6
	なし (n=56)	10.3±3.4	15.6±3.3	10.3±4.2	12.9±4.2	8.3±3.5
孫の世話	あり (n=14)	8.8±2.7	14.4±4.5	8.8±4.1	11.6±5.5	9.9±3.7
	なし (n=56)	10.3±3.5	15.5±3.1	10.4±4.1	13.1±4.0	8.7±3.5
居住状況	夫と二人 (n=49)	10.1±3.6	15.4±3.2	9.9±4.1	12.8±4.1	8.1±3.1
	二世以上 (n=17)	9.8±2.9	15.3±4.3	10.6±3.5	12.7±4.4	11.7±3.1
	独居 (n=4)	9.2±2.6	14.5±3.7	10.3±6.5	12.7±7.9	7.3±5.1
就労	なし (n=33)	10.3±3.2	15.9±3.1	10.2±3.8	13.0±4.4	8.7±3.9
	あり (n=37)	9.7±3.5	14.7±3.7	10.0±4.4	12.6±4.4	9.2±3.3
社会活動	なし (n=41)	9.9±3.7	15.1±3.2	10.3±4.3	13.0±4.4	9.3±3.6
	あり (n=29)	10.1±3.0	15.6±3.8	9.8±3.9	12.5±4.3	8.4±3.5
生活満足度	満足 (n=31)	9.3±3.0	15.9±2.5	10.0±4.2	13.6±4.1	8.7±3.9
	まあまあ満足 (n=33)	10.5±3.6	15.1±3.6	10.3±3.9	12.5±4.6	8.9±2.8
	不満足 (n=6)	10.8±3.6	13.0±5.9	9.5±4.5	10.2±3.5	10.7±5.7

* : p<0.05で有意差あり

れている。今回の結果は育児期の母親に比して低いが、50パーセンタイル値を保っているので問題はないと考えられる。またACの意味は周囲に適応していく従順な自我状態であるが、これも50パーセンタイル値を保っている。また吉内ら⁴⁾の報告による平均25.9±10.8歳の成人健康女性のA得点は9.66±3.94、AC得点は9.40±4.31と今回の結果と近似値であり、中年期女性のエゴグラム・サブカテゴリー得点には特異性はなかった。

エゴグラム・パターン分類では、上位よりAC低位型21.4%、平坦型12.9%、NP優位型10.0%でこの3型で44.3%となった。喜多ら³⁾によると、育児期の母親に多いパターンは上位よりN型42.3%、M型20.1%、NP型14.1%と報告されており、吉内ら⁴⁾の成人健康女性では平坦型7.9%、NP優位型7.5%、FC優位型7%となっている。今回の結果はAC低位型が一番多かったが、喜多ら³⁾(育児期母親の調査)ではAC低位型0%、大島ら⁵⁾(成人期の調査)では2.2%と報告されている。AC低位型は“看護婦長タイプ”といわれ、リーダーシップがとれる型とされることから家族管理を担っている中年期女性の

特性をうかがい知ることができた。

諸要因別におけるエゴグラム・サブカテゴリーの平均得点で関連があったのは介護役割の有無と居住状況であった。いずれもAC得点に有意差を認めていて、介護役割「あり」の群で高く、また居住状況では「二世以上」の群で高い結果となった。AC得点の全体の平均点は50パーセンタイル値前後であり顕著に高得点ではないが、AC得点が高いほど神経症傾向や気分・感情の不調を生じやすい可能性があるといわれており、今回の結果は子供の親役割と、老親の介護役割を担っている中年期女性の心理的ケアの方向性を検討するうえでの参考になると思われる。

文 献

- 1) 財団法人厚生統計協会：国民衛生の動向・厚生指標臨時増刊，49(9)：65，2002.
- 2) 岡堂哲雄：家族心理学入門，93-94，培風館，1992.
- 3) 喜多淳子 他：育児期の母親の自我状態，育児不安，及び自己評価（第2報）—エゴグラム・サブカテゴリーによる育児不安，及び自己評価の予測・説明—，母性衛生，42(2)：814-819，2001.

4) 吉内一浩 他：東京大学医学部心療内科 TEG 研究会編，
新版 TEG 解説とエゴグラム・パターン，31-36，金子書
房，2002.

5) 大島京子 他：東京大学医学部心療内科編，新版 エゴ
グラム・パターン -TEG 第2版による性格分析-，131-
133，金子書房，1995.

The psychological characteristics of middle age women

Sekizuka Naomi, Sakai Akemi, Shimada Keiko, Tabuchi Noriko
Kameda Yukie, Sasagawa Toshiyuki, Koike Kouji, Bouda Hitomi